

後期 人権啓発巡回映画会

無料

ハートフルシネマ

この秋、あなたに贈る、学びと気づきの2作品



わっかカフェへようこそ



光射す空へ

- 11 / 1 (火) 14時 ~ 地域総合センター上ノ島
- 11 / 8 (火) 13時30分 ~ 地域総合センター水堂
- 11 / 9 (水) 13時30分 ~ 塚口南地域学習館
- 11 / 10 (木) 13時30分 ~ 立花公民館
- 11 / 15 (火) 13時30分 ~ 武庫公民館
- 11 / 16 (水) 10時 ~ 小園地域学習館
- 11 / 24 (木) 10時 ~ 大庄公民館
- 11 / 28 (月) 13時30分 ~ 小田公民館
- 11 / 29 (火) 13時30分 ~ 中央公民館

- 11 / 2 (水) 13時30分 ~ 地域総合センター南武庫之荘
- 11 / 11 (金) 10時 ~ 園田公民館
- 11 / 14 (月) 10時30分 ~ 地域総合センター神崎
- 11 / 14 (月) 13時30分 ~ 地域総合センター今北
- 11 / 24 (木) 13時30分 ~ 地域総合センター塚口
- 11 / 29 (火) 10時 ~ 女性センタートレビエ
- 12 / 1 (木) 14時 ~ 地域総合センター上ノ島

映画上映と講師によるお話 (約2時間)

公民館は要申込み
その他は不要です

公益社団法人尼崎人権啓発協会

電話 06 - 6489 - 6815
Fax 06 - 6489 - 6818

光射す空へ



ありよし あさひ
有吉 朝陽
大学2年生。
父の若年性認知症発症で不安を抱えてアルバイトに励む。



いしい そうた
石井 颯太
大学生。心と身体の性
が一敗せず生きづらさ
を感じている。



とくなが ゆみ
徳永 優海
朝陽と共同で同和問
題について学ぶ。



ありよし かずまさ
有吉 和正
若年性認知症と診断
を受け、会社を休職。



いのうえ とくたろう
井上 徳太郎
朝陽と優海の通う大
学の教授。



たなか ときえ
田中 時恵
同和地区出身。自分
が受けた差別を語る。

あらすじ

大学生の有吉朝陽には、悩みがある。父の和正が若年性認知症と診断されたのだ。和正は会社を休職中。母の典子は明るく振る舞っていたが、朝陽は記憶や理解力を失っていく父に苛立ちを隠せない。何でも話せる幼なじみの颯太だけが心の支えだ。その颯太もまた、生きづらさを感じていた。

朝陽は大学の同級生・優海と共同で「自分がよく知らない人権課題」について調べ、レポートを書くことになった。2人が選んだ課題は、「同和問題」。何の知識もない朝陽はインターネットで同和問題の歴史や現状について調べるが、情報の中には同和地区の人々に対する誹謗や中傷もあり何が真実なのかわからない。朝陽と優海は井上教授に相談。田中時恵という女性を紹介してもらい。時恵は自宅を訪れた2人に、自分が受けた結婚差別について語る。朝陽は優海とともに噂や偏見に惑わされずに自分自身で正しく知ること、人と向き合うことの大切さを学ぶ。

夜中に和正が家から姿を消した。颯太とともに、公園にいる和正を見つけた朝陽は、そこで認知症になっても失われぬ父の誇りと愛情を知るのだった。和正は、職場の理解を得て仕事に復帰。朝陽と典子は家族として和正に寄り添い、胸を張って生きていく決意をする。

颯太は突然、優海に自分がLGBTのT、トランスジェンダーであることを告白する。これまで打ち明けたのは朝陽だけ。自分の家族にすら言えなかったことだ。優海に告白したのは、「普通」とは少し違う自分のことを他の人に理解してもらうための第一歩だ。優海は戸惑いつつも、颯太という人間をあるがままに受け入れる。そんな優海を見て、朝陽も父のことを打ち明けるのだった。

梅雨が明け、空に光が射す頃。人権課題に関するレポートを提出する朝陽と優海。それを読む井上教授の顔に笑みが浮かんだ。

わっかかカフェへようこそ



インターネットによる人権侵害
三色団子の向こう側



主人公・彩乃は、初めて自分のスマートフォンを持ち、友達に舞に使い方を教えてもらい、うれしくて仕方がない。「学校でルールは習ったから大丈夫」と彩乃は言うものの、そのはしゃぐ様子を見て、少し心配になる桜。夜、ついルールを破って、自分の部屋で遅くまで友達とのSNSを続けてしまう彩乃。そして、事件が起こる…



高齢者の人権
世代をつなぐ柏餅



窓際の席で和む、高齢の男性・清。そこへ、清を叱責する一人の男性。「勝手に外に出るなって言っただろ！ 面倒みるのは俺なんだぞ！」帰っていく二人。その様子を見ていた駿は「一人で背負い込んじゃってるのかも。家族だけの問題なのかな」と問いかける。

事例として高齢者の地域包括ケアを目指す「暮らしの保健室」や、高齢者の人生を傾聴して本にまとめる「聞き書き」の活動を取材



外国人の人権
コンペイトウの来た道



桜がすり傷の手当をした外国人の少年のことから、話題が広がる商店街の三人。「私は、日本人とだけ付き合えば十分」三人の中で、市川だけが、外国人に対してたたくのである。そんな中、駿が、みんなにあるお茶を出す…

事例として市民レベルの国際交流の推進、在住外国人支援を行っている「(公財)武蔵野市国際交流協会」や、おみこしを通して外国人との相互理解の推進を続けている「国際交流のおみこしを担ぐ会」を取材